

C 文化・スポーツ・観光施設

【目次】

- C-1 ホール施設
- C-2 スポーツ施設
- C-3 観光関連施設
- C-4 集会施設

余白ページ

C-1 ホール施設

0 川越市公共施設等総合管理計画におけるマネジメント方針

- ホール施設（地域ふれあいセンターを除く。）は、稼働実態を精査のうえ、ホール施設の在り方を検討するとともに、総量を適正な規模にします。
- ウェスタ川越大ホールは、県とも連携して計画的な維持・管理を行い、予防保全を図ります。
また、川越駅前の立地を活かし、周辺自治体との広域化を検討します。
- 地域ふれあいセンターのホールは、その規模や用途によって、学校など他の公共施設との多機能化を進めます。

1 施設の概要など

(1) 施設概要（設置目的、利用状況、整備状況など）

（文化芸術振興・市民活動拠点施設 大ホール）

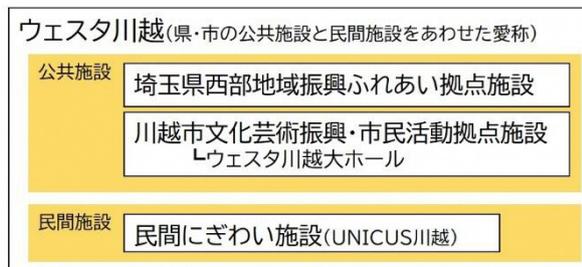
文化芸術振興・市民活動拠点施設は、川越市文化芸術振興・市民活動拠点施設条例で位置付けられた施設で、文化芸術の振興並びに市民の活動及び交流の促進を図り、もって市民の文化の発展及び福祉の増進に資するために設置した施設です。

大ホールがあるウェスタ川越は、埼玉県が所有する埼玉県西部地域振興ふれあい拠点施設及び本市が所有する川越市文化芸術振興・市民活動拠点施設の公共施設と、民間にぎわい施設

（UNICUS 川越）をあわせた愛称です。

なお、公共施設のある棟は、指定管理者である NeCST が運営しています。

ウェスタ川越大ホールは、座席数 1,722 席と本市のホール施設で最も大きい施設で、2018 年度のホール部分の利用件数は 307 件、利用者数は 250,331 人であり、使用率は 73.0%となっています。



（やまぶき会館、川越駅東口多目的ホール、西文化会館、南文化会館）

やまぶき会館、川越駅東口多目的ホール、西文化会館及び南文化会館は、川越市文化施設条例で位置付けられ、市民の文化の向上及び福祉の増進を図るために設置した施設です。

やまぶき会館は、旧市民会館の中ホールとして建築され、座席数 518 席です。2016 年度に舞台照明操作卓の改修を行っています。

川越駅東口多目的ホールは、やまぶき会館分室としてクラッセ川越に設置されており、座席数 204 席です。

※川越駅東口多目的ホールのあるクラッセ川越の概要については、「B-2 図書館」に記載しています。

西文化会館のホールは 352 席、南文化会館のホールは 368 席の座席数があります。西文化会館は 2017 年度に屋根・外壁タイルの一部と舞台照明設備、南文化会館は 2016 年度に舞台音響調整卓の改修を行っています。

2018 年度、各施設のホールの利用状況は以下のとおりです（図表 80）。

なお、やまぶき会館、西文化会館、南文化会館は、指定管理者である公益財団法人川越市施設管理公社が運営しています。

【図表 80 ホールの利用状況】

	使用率(%)	利用件数(件)	利用者数(人)
やまぶき会館	50.0	278	61,644
川越駅東口多目的ホール	98.7※	715	24,585
西文化会館	40.0	202	31,854
南文化会館	36.4	208	30,251

※川越駅東口多目的ホールの使用率は日使用率¹³

（北部地域ふれあいセンター、東部地域ふれあいセンター）

北部地域ふれあいセンターと東部地域ふれあいセンターは、川越市地域ふれあいセンター条例で位置付けられ、市民に文化活動及び学習の場を提供することにより市民の相互交流を図り、もって市民の文化の向上及び豊かな地域社会づくりに資するために設置した施設です。

北部地域ふれあいセンターのホールは 201 席、東部地域ふれあいセンターのホールは 200 席の座席数があります。

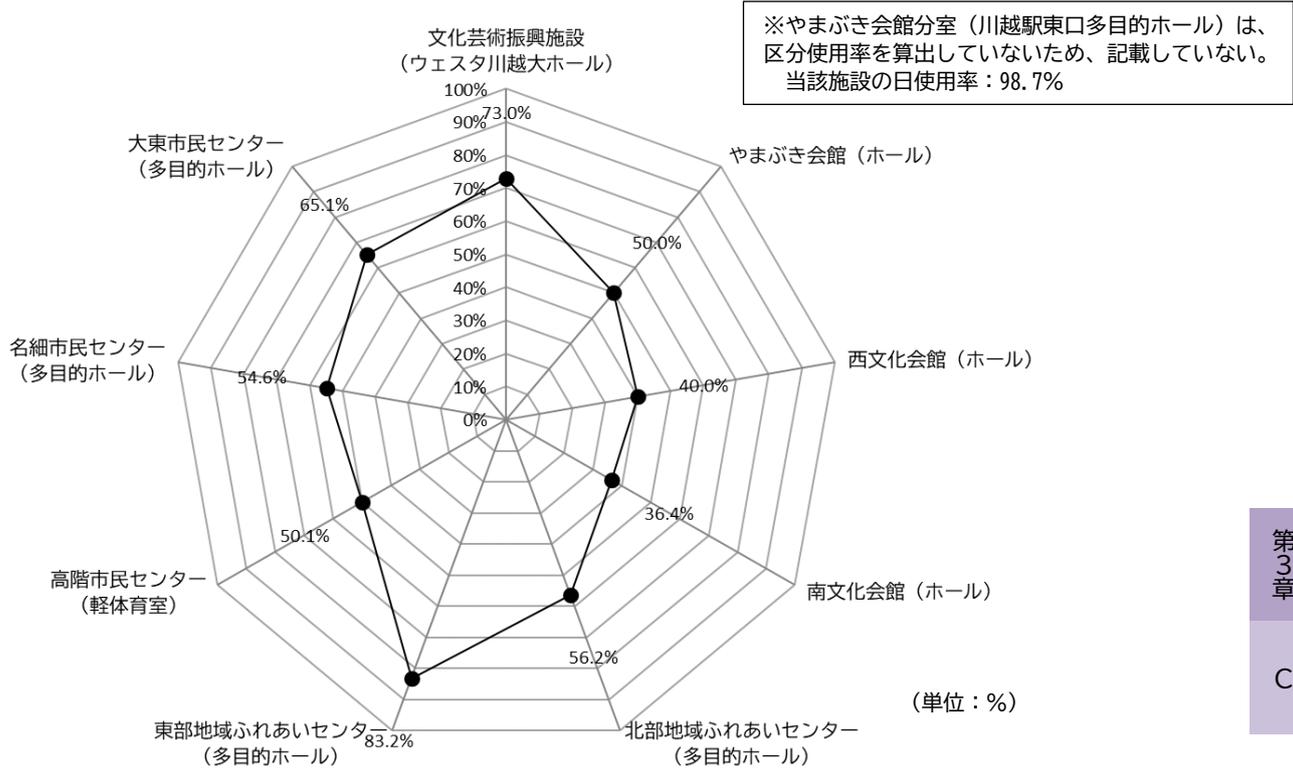
北部地域ふれあいセンターの 2018 年度のホール部分の利用件数は 516 件、利用者数は 15,663 人、使用率は 56.2%となっています。2016 年度に太陽光発電設備の一部を改修しています。

東部地域ふれあいセンターの 2018 年度のホール部分の利用件数は 764 件、利用者数は 19,479 人、使用率は 83.2%となっています。

なお、北部地域ふれあいセンターは、特定非営利活動法人川越市北部地域ふれあいセンター運営協議会が、東部地域ふれあいセンターは、特定非営利活動法人川越市東部地域ふれあいセンター運営協議会が指定管理者として運営をしています。

¹³ 日使用率 (%) = (利用者がいた日 / 総開館日) × 100

【図表 81 ホールの使用率（2018年度）】



(2) 対象施設

ここで対象とする施設は、以下のとおりです。

【図表 82 対象施設一覧（ホール施設）】

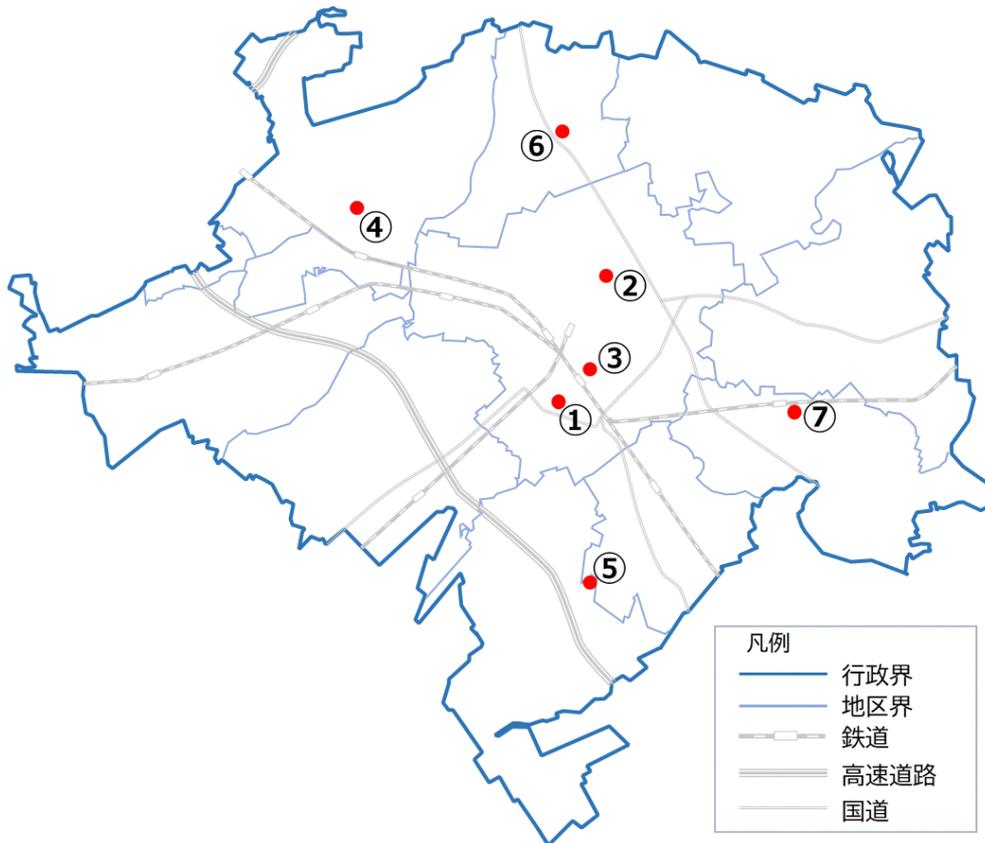
No.	施設名	地区	建築年度	延床面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)	備考
1	文化芸術振興施設 (ウエスタ川越大ホール)	本庁	2014	40,211	15,637	ウエスタ川越内 内 2,222 ㎡借地
2	やまぶき会館	本庁	1991	4,909	6,193	内 2,809 ㎡借地
3	やまぶき会館分室 (川越駅東口多目的ホール)	本庁	2001	—	—	クラッセ川越内
4	西文化会館(メルト)	名細	1988	3,191	8,849	内 2,532 ㎡借地
5	南文化会館 (ジョイフル)	福原	1993	4,298	14,670	
6	北部地域ふれあいセンター	山田	2002	1,259	4,626	全借地
7	東部地域ふれあいセンター	南古谷	2007	977	3,765	内 1,227 ㎡借地

※文化芸術振興施設（ウエスタ川越大ホール）の延床・敷地面積は、他の複合施設を含めた面積を記載。敷地面積は、民間にぎわい施設部分（7,658 ㎡）を除く。

※やまぶき会館の敷地面積は、旧市民会館を含めた面積を記載

※やまぶき会館分室（川越駅東口多目的ホール）の延床・敷地面積は、川越駅東口図書館に含めて記載

【図表 83 配置図（ホール施設）】



なお、ホールの形状や主に使用する用途により、劇場型や多目的型、体育館型などがありますが、対象施設は劇場型及び多目的型を対象とします(図表 84)。

【図表 84 ホール施設（類似を含む）の区分について】

	劇場型	多目的型	体育館型
施設名	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術振興施設（ウェスタ川越大ホール） やまがき会館 西文化会館 南文化会館 中央図書館視聴覚ホール 博物館視聴覚ホール 	<ul style="list-style-type: none"> 北部地域ふれあいセンター 東部地域ふれあいセンター 川越駅東口多目的ホール 高階市民センター 名細市民センター 大東市民センター など 	<ul style="list-style-type: none"> 農業ふれあいセンター多目的ホール なぐわし公園PiKOA多目的ホール 川越運動公園体育館 小中学校体育館 など
イメージ			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ホール専用の室 ✓ 主にコンサートや講演会、観劇鑑賞などの会場として利用 ✓ 成果発表の場としても利用 ✓ 座席は固定されている ✓ 音響設備や照明設備等も設置 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 生涯学習・社会教育の活動・成果発表の場や軽体育室として併用 ✓ フロアは平面（平土間） ✓ 座席は常設されていない ✓ 座席が電動で移動する施設あり 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 主に運動を行う室 ✓ 式典等の会場としても利用 ✓ 座席は常設されていない ✓ 川越運動公園体育館は、座席が電動で移動

(3) ホール施設の課題

① 施設の適切な維持管理と施設効用の向上

ホール施設は、躯体に係る保全に加え、ホールが持つサービスを提供するため、ホールに付属する多くの機器設備も、あわせて維持管理を行う必要があります。

利用者が使用料を負担していることを踏まえ、サービスを安定的に提供できるよう維持管理を行っていく必要があります。

また、ホール施設の中には、ホールや貸室の使用率が低い施設もあることから、施設効用の向上に向けた取組を行う必要があります。

② ホールの規模の適正化と類似している機能の整理

本市のホールに係る文化施設の設置経緯を踏まえ、より市民が利用しやすいホールへ、更新時には規模を適正化する必要があります（図表 85）。

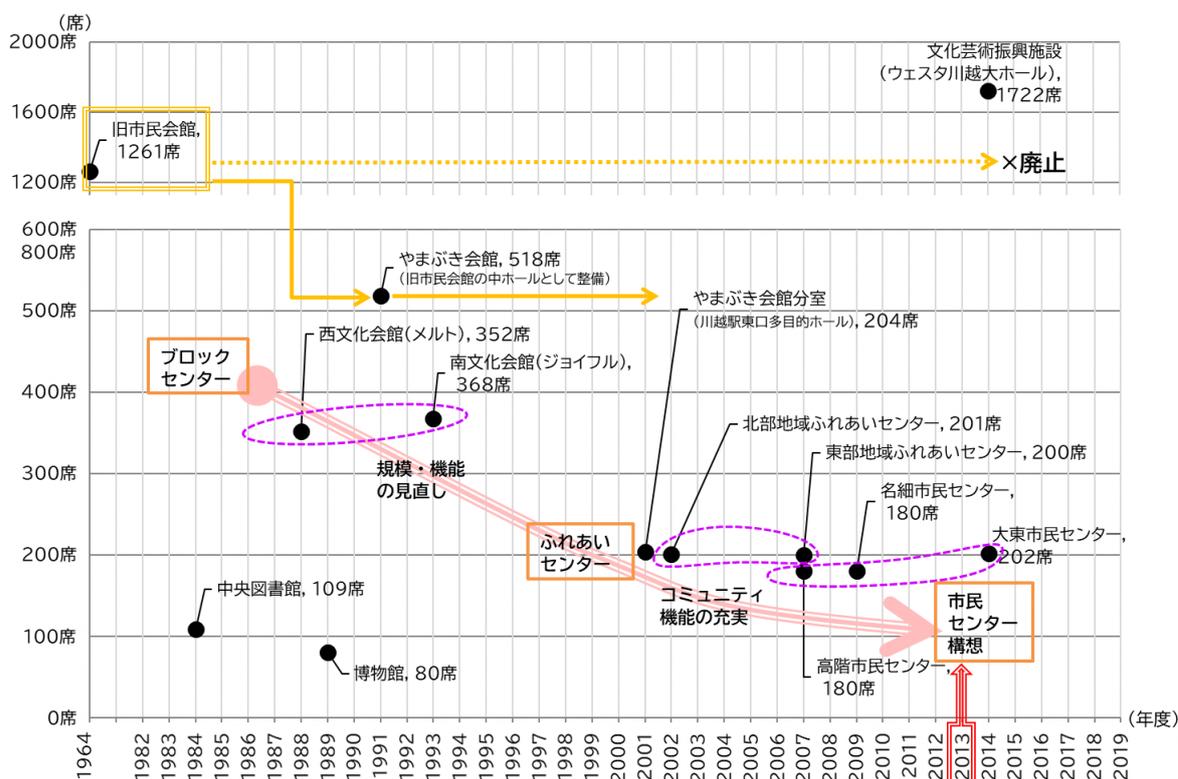
また、ホール施設の中には、他の公共施設と類似した座席規模であったり、貸室が設置されたりしていることから、地域における公共施設の配置状況を踏まえ、機能の整理を行う必要があります。

③ 文化芸術振興施設（ウエスタ川越）の維持管理

ウエスタ川越は、埼玉県西部地域振興ふれあい拠点施設と川越市文化芸術振興・市民活動拠点施設という県と市の複合施設です。

本市の公共施設の中では最も延床面積が大きく（県有・共用部分を含む。）、多種多様な施設が集まっていることから、維持管理のための業務委託や改修に係る費用が大きくなることが想定されます。

【図表 85 設置経緯からみたホール施設の建築年度と座席数】



2 ホール施設の整備更新の方針

(1) 今後の方向性

ホール施設は、全て新耐震基準建築物であることから、計画的に保全を行い、長寿命化を図ります。

ホールには、音響設備、照明設備、舞台設備など、多くの機器設備が設置されています。ホールを利用する際、これらの設備の利用が前提となることから、必要に応じ改修を行います。

本市のこれまでのホールに係る設置の経緯を踏まえ、「行政や指定管理者等が提供する文化活動」も行いつつ、「市民の自主的な文化活動」を支援するため、地域住民が使用しやすい施設になるよう、更新時には規模の見直しを行います。

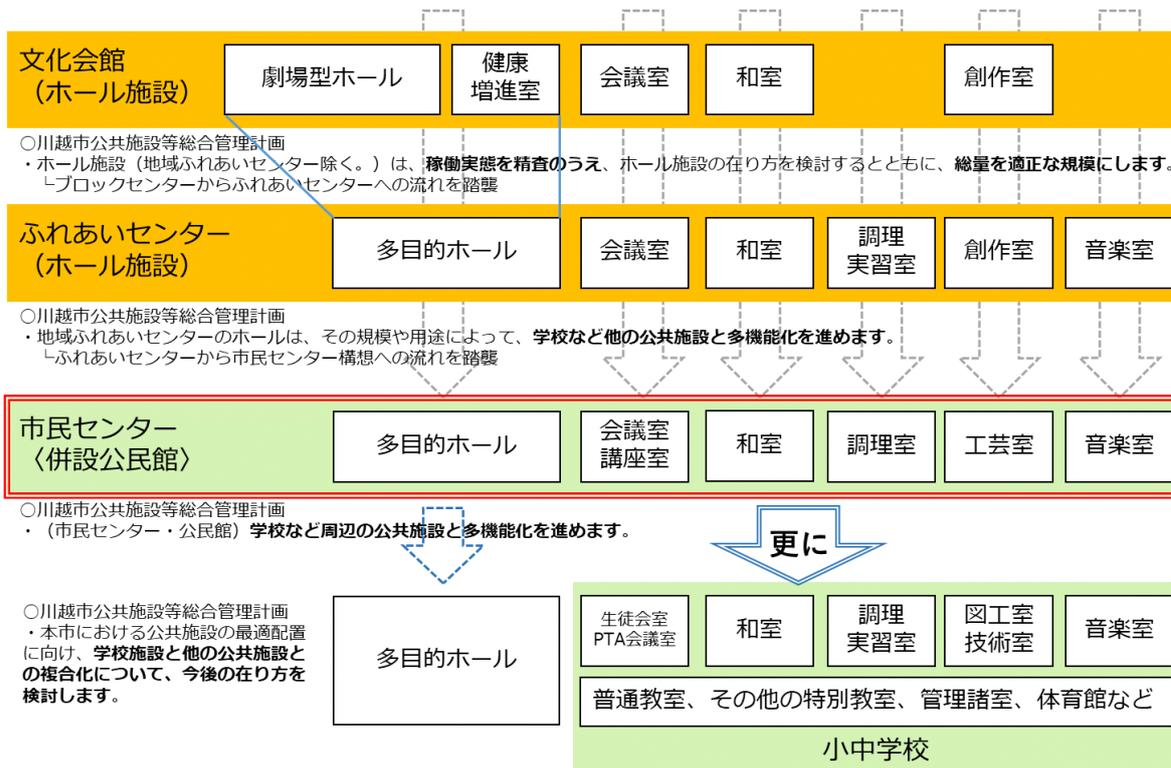
ホール施設にある「会議室」、「和室」、「調理室」、「工作室」、「音楽室」などの貸室は、地域にある公民館等の貸室と用途が重複しています。特に、和室、調理室及び工作室は、ホール施設と公民館等ともに使用率が低い状況です。

ホール施設の「規模の見直し」や「貸室の重複解消」のため、他の公共施設（市民センターや学校施設）の更新の際には、ホール施設の複合化について検討を進めます（図表 86）。

文化芸術振興施設（ウェスタ川越）は、埼玉県との複合施設であることから、予算や休館時期等について、埼玉県や指定管理者と協議・調整を行い、計画的に行うとともに、財政負担の平準化に努めます。

ホールの使用率が、西文化会館では 40.0%、南文化会館では 36.4%であることから、使用率の向上のための取組を検討します。

【図表 86 重複した貸室の解消やホール機能の配置のイメージ】



(2) 規模・配置について

ホールは、本市における文化施設の設置の経緯を踏まえ、更新時には規模の見直しを行います。

また、ホールやホール以外の貸室についても、他の公共施設の配置状況を踏まえ、ホール施設や他の公共施設の更新の際、重複した貸室の解消やホール機能の配置の検討を行います。

3 ホール施設の検討結果

2025年度までに取組を進める施設は、以下のとおりです。

【図表 87 改修対象施設】

対象施設	取組	内容
川越駅東口多目的ホール (クラッセ川越内)	20年目 改修	20年目改修の時期にあたり、工事履歴や点検結果等を踏まえ、必要な改修を行います。
北部地域ふれあいセンター	20年目 改修	20年目改修の時期にあたり、工事履歴や点検結果等を踏まえ、必要な改修を行います。

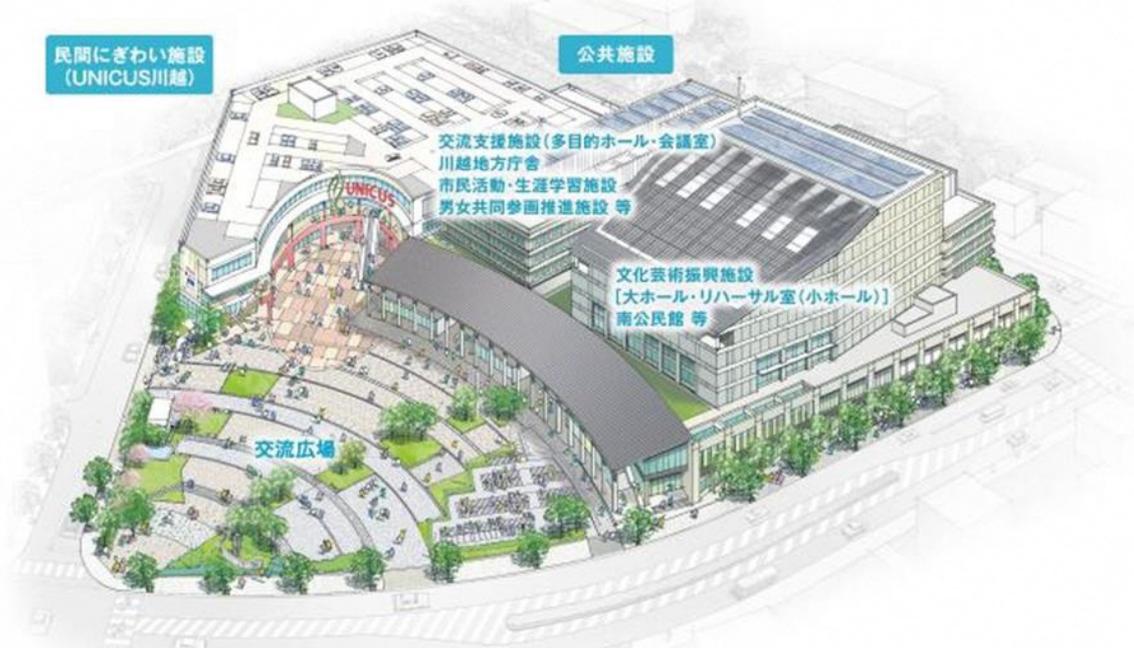
複合施設② ウェスタ川越

ウェスタ川越は、埼玉県と川越市が共同し、地域産業の振興に加え、文化芸術の振興や地域住民の活動・交流を促進するための県及び市の公共施設と、民間事業者による、民間にぎわい施設を一体的に整備した施設です。

ウェスタ川越にある本市の施設は、大ホール、公民館、市民活動・生涯学習施設、子育て支援センター、男女共同参画推進施設などがあります。

(1) 施設諸元など

- ・ 愛 称 ウェスタ川越
(埼玉県西部と川越駅西口の「西:West」と「スタート:Start」を組み合わせた造語)
県有施設の名称：埼玉県西部地域振興ふれあい拠点施設
市有施設の名称：川越市文化芸術振興・市民活動拠点施設
民間施設の名称：UNICUS 川越
- ・ 住 所 川越市新宿町1-17-17
(公共施設部分)
- ・ 建築年度 2014年度
- ・ 構造階数 鉄筋コンクリート造/地上6階地下2階
- ・ 敷地面積 15,637㎡
- ・ 延床面積 40,211㎡
- ・ 指定管理者 NeCST (2015年2月28日～2020年3月31日)

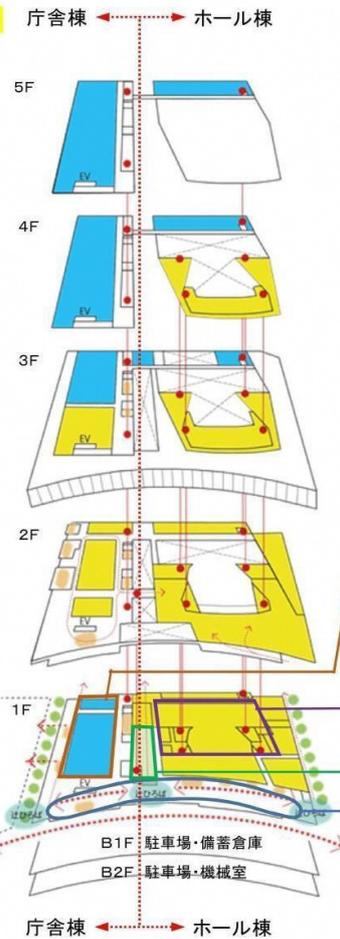


※指定管理者は2018年度末時点

(2) ウェスタ川越にある施設 (2020年4月時点)

各階平面図

- 県施設
市施設
庁舎棟
→
ホール棟
- 5F (県施設)
 - 商工団体等
 - 創業支援施設
 - 川越農林振興センター
 - 4F (県施設)
 - パスポートセンター川越支所
 - 川越比企地域振興センター
 - 川越建築安全センター
 - 西部教育事務所
 - 西部環境管理事務所
 - 3F (県施設)
 - 消費生活支援センター川越
 - 川越県税事務所
 - 会議室
 (市施設)
 - 男女共同参画推進施設
 - 市民相談室
 - 2F (市施設)
 - 大ホール・ホワイエ
 - リハーサル室(小ホール)
 - 市民活動・生涯学習施設
 - 子育て支援センター
 - ワークショップ・情報コーナー
 - 1F (県施設)
 - 多目的ホール
 - 会議室
 (市施設)
 - 公民館
 - 証明センター
 - 産業観光コーナー
 - 喫茶室



多目的ホール



大ホール



光庭



魅せ蔵モール

※1階証明センターは、2020年6月に川越市民サービスステーションに移転

C-2 スポーツ施設

0 川越市公共施設等総合管理計画におけるマネジメント方針

- 武道館は、必要な機能や利用者の状況を考慮し、他の施設との共用化を含め、施設の在り方を検討します。
- 芳野台体育館は、稼働実態を精査のうえ、他の施設との共用化などにより機能を維持します。
- 川越運動公園は、周辺自治体や県との広域化により負担の軽減を図りつつ、計画的に改修を行い、長寿命化を図ります。
- なぐわし公園温水利用型健康運動施設（PiKOA）は、引き続き民間活力の活用を進め、計画的に維持・管理を行い、予防保全を図ります。

1 施設の概要など

(1) 施設概要（設置目的、利用状況、整備状況など）

(川越武道館)

川越武道館は、川越武道館条例で位置付けられた施設で、市民の健康と体力の増進に寄与することを目的として、剣道場、柔道場、弓道場を有しています。

2018年度の利用者数は、29,713人で、日使用率は100%です。

川越武道館は、旧耐震基準建築物です。2019年度から、耐震補強工事及び内部改修工事を実施しています。

(芳野台体育館)

芳野台体育館は、川越市社会体育館条例で位置付けられた施設で、市内で唯一の社会体育館です。市民のスポーツの振興を図り、もって市民の健康的な生活に資することを目的としています。隣接する中高年齢労働者福祉センター（サンライフ川越）と、渡り廊下でつながっており、開設当初から一体的に管理されています。

2018年度の利用者数は、20,146人で、使用率は79.9%となっており、2003年度と比較すると約1.9倍となっています。

芳野台体育館は、新耐震基準建築物です。1999年度に屋上防水、2000年度に床面塗装工事を実施しています。

なお、当施設は、指定管理者である公益財団法人川越市勤労者福祉サービスセンターが運営しています。

(初雁公園野球場)

初雁公園は、都市公園法に基づく都市公園です。有料の公園施設として、川越市都市公園条例で位置付けられた野球場があり、全国高校野球選手権埼玉大会など、多くの大会に利用されています。

2018年度の利用者数は、10,348人であり、年々利用者数は減少しています。

なお、初雁公園野球場は、旧耐震基準建築物です。

(川越運動公園（陸上競技場、総合体育館、テニスコート管理棟）)

川越運動公園は、都市公園法に基づく都市公園です。有料の公園施設として、川越市都市公園条例で位置付けられた、陸上競技場、総合体育館、テニスコートがあり、全て新耐震基準建築物です。

2018年度の陸上競技場の利用者数は、72,557人で、日使用率は99.7%です。総合体育館の利用者数は、159,453人で、日使用率は100%です。テニスコートの利用者数は62,467人で、日使用率は99.0%です。

陸上競技場は、日本陸上競技連盟に第2種競技場として公認されています。総合体育館は、2013年度に吊り天井、2017年度に床を改修しています。

なお、川越運動公園は、指定管理者である公益財団法人川越市施設管理公社が運営しています。

(なぐわし公園温水利用型健康運動施設（PiKOA）)

なぐわし公園は、都市公園法に基づく都市公園で、公園内には、有料の公園施設として、川越市都市公園条例で位置付けられた温水利用型健康運動施設（PiKOA）があり、温水プール、温浴施設、多目的ホール、トレーニング室などの施設を有しています。

2018年度の利用者数は542,657人で、2014年度以降は50万人を超えて推移しています。多目的ホールはバスケットボールやバレーボール、卓球などの各種スポーツなどで利用され、2018年度の使用率は67.7%です。

なぐわし公園温水利用型健康運動施設（PiKOA）は、新耐震基準建築物です。当施設は、資源化センターの余熱利用施設として、PFI¹⁴事業（BTO方式¹⁵）で整備され、指定管理者であるなぐわし公園PFI株式会社が運営しています。

¹⁴ PFI:Private Finance Initiative の略。「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」に基づき、公共施設等の設計、建設、維持・管理及び運営に、民間の資金や経営能力、技術的能力を活用することにより、効率的かつ効果的にサービスを提供する手法。

¹⁵ BTO方式:Build Transfer Operate の略。PFIの一手法で、民間事業者が施設等を建設し、施設完成直後に公共施設等の管理者等に所有権を移転し、民間事業者が維持・管理及び運営を行う事業方式。

(2) 対象施設

ここで対象とする施設は、以下のとおりです。

【図表 88 対象施設一覧（スポーツ施設）】

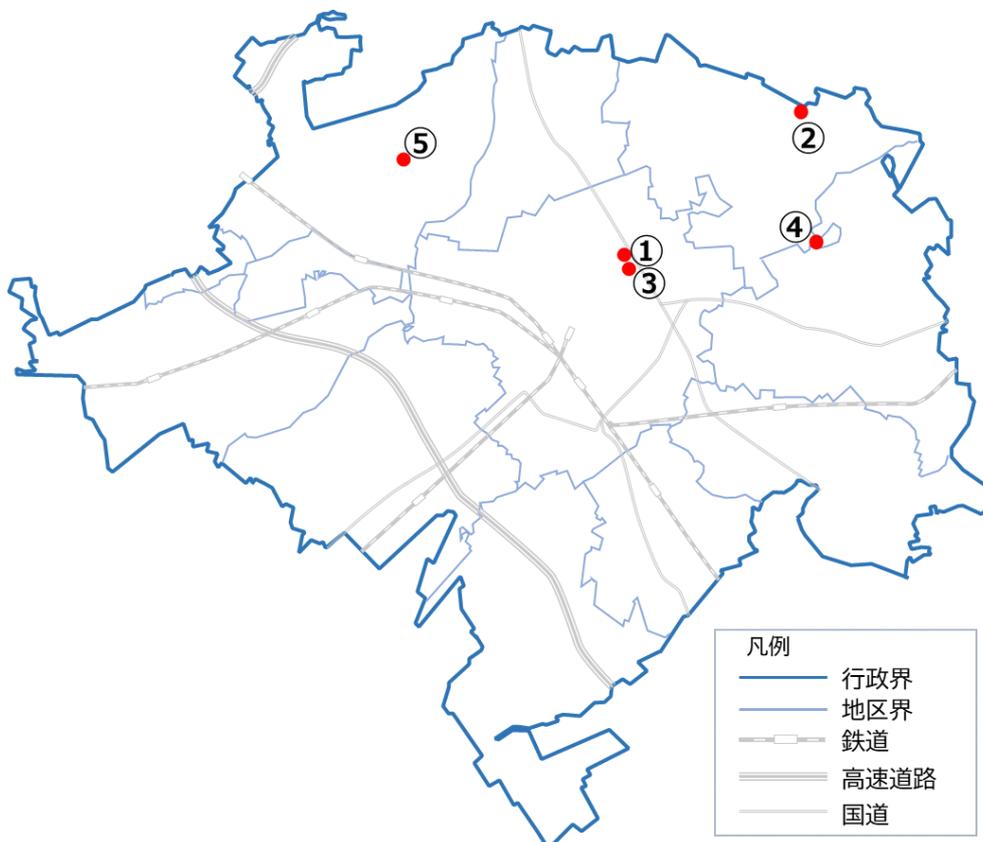
No.	施設名	地区	建築年度	延床面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)	備考
1	川越武道館	本庁	1974	2,238	1,861	
2	芳野台体育館	芳野	1985	768	2,240	
3	初雁公園野球場	本庁	1952	382	—	
4	川越運動公園	芳野			135,000	
4a	陸上競技場		1989	5,962		
4b	総合体育館		1994	10,241		
4c	テニスコート管理棟		1999	136		
5	なぐわし公園温水利用型健康運動施設 (PiKOA)	名細	2012	7,076	53,698	

※初雁公園野球場の延床面積は、公園内の野球場関連施設の面積を記載

※川越運動公園陸上競技場の建築年度は、メインスタンドの建築年度を記載

※初雁公園野球場の敷地面積は、公園管理事務所に含めて記載。川越運動公園、なぐわし公園温水利用型健康運動施設 (PiKOA) の敷地面積は、公園供用面積を記載

【図表 89 配置図（スポーツ施設）】



(3) スポーツ施設の課題

① 計画的な施設の保全

スポーツ施設は、児童から高齢者まで幅広く使用する施設です。また、体育館の床のはく離など、安全が確保されずに使用を続けると、利用者が負傷する事故が起こる可能性があります。事故を未然に防ぐためも、法定点検の実施や計画的な改修を実施し、適切な保全が必要です。

② 施設更新に向けた検討

初雁公園野球場は、既に建築後 65 年以上経過しており、老朽化が著しい状況です。また、施設更新の検討を行う必要がありますが、現在の場所は、史跡川越城跡にあるため、遺構保存に支障がある現地での建替えは困難な状況です。

③ 多様なニーズに対する対応

スポーツは多種多様であり、個々のスポーツに対応するための専用の施設を整備することは困難です。スポーツに係る多様なニーズを踏まえつつ、適切な施設の規模や仕様の検討が必要です。

2 スポーツ施設の整備更新の方針

(1) 今後の方向性

本市にあるスポーツ施設は、どの施設も使用率が高い状況です。今後も、この高い使用率を継続するための維持管理を行います。

川越武道館は、耐震補強工事を実施中であり、今後、20 年程度の使用を見込んでいます。適正な維持管理を行いつつ、目標使用年数を踏まえた保全を行っていきます。

川越運動公園（陸上競技場、総合体育館、テニスコート）は、今後も安全に利用をするための維持管理を行います。

芳野台体育館は、同一敷地内にある川越市中高年齢労働者福祉センター（サンライフ川越）と一体となって運営されています。川越市中高年齢労働福祉センターの今後の在り方の検討と共に、芳野台体育館の在り方についても検討を行います。

なぐわし公園温水利用型健康運動施設（PiK0A）は、引き続き民間活力の活用を進め、計画的に保全を行い、長寿命化を図ります。

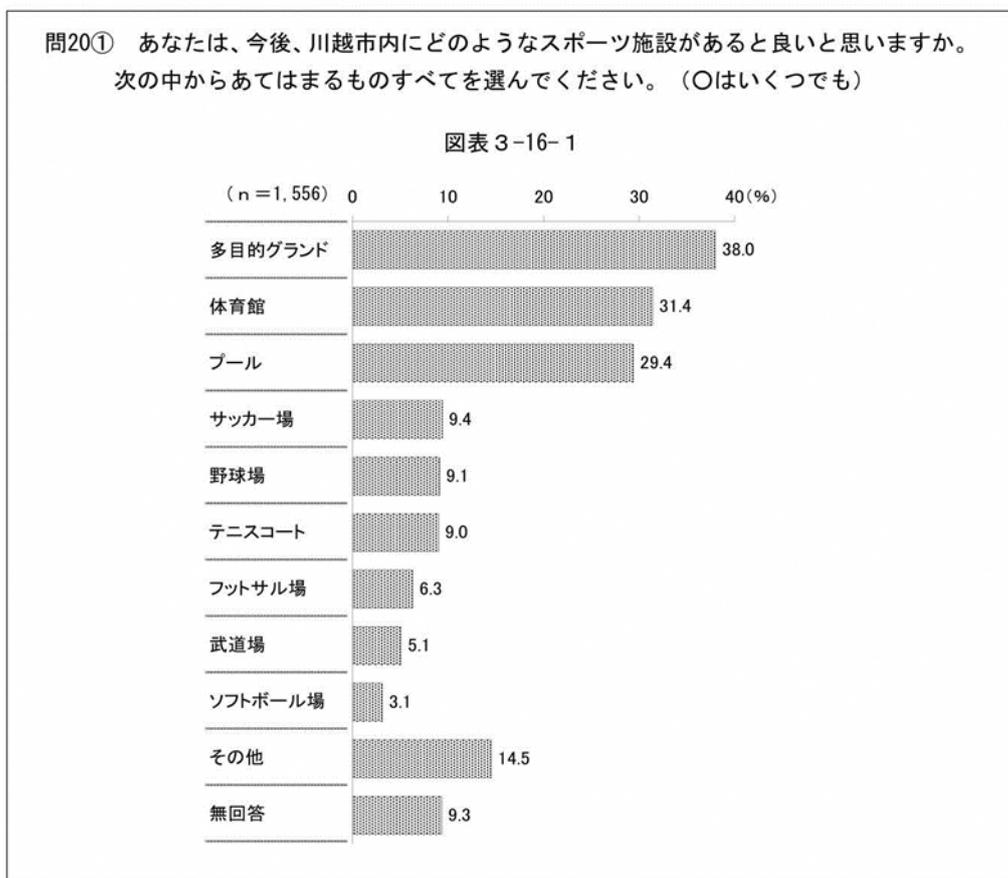
初雁公園野球場は、スポーツニーズの把握等を行いつつ、整備の規模や時期、手法について検討を行います。

2018年度市民意識調査では、望まれるスポーツ施設として、多目的グラウンドや体育館、プールなど、複数の種目ができる施設を望む方が多い結果となっています(図表90)。また、一定規模以上の競技大会等を開催できる規模の施設は、地域住民が日常の運動をするために利用するには過剰な規模・仕様となっている可能性があることから、広域連携による周辺地方公共団体や県とそれぞれが保有するスポーツ施設の役割分担の検討や、既存の民間施設の利用を促進するなど、公共施設の整備以外の手法の検討を行います。

【図表 90 2018年度市民意識調査（望まれるスポーツ施設）】

(16) 望まれるスポーツ施設

◇「多目的グラウンド」が38.0%



望まれるスポーツ施設をたずねたところ、「多目的グラウンド」(38.0%)が4割近くで前回の調査に引き続き最も多くなっており、ニーズが多様化していることがうかがえる。以下、「体育館」(31.4%)、「プール」(29.4%)、「サッカー場」(9.4%)などの順となっている。

(図表 3-16-1)

(2) 規模・配置について

スポーツ施設を建設する際、基本構想を策定し、その時代で求められている施設規模を検討し、整備しています。

スポーツ施設は、その施設の大きさや駐車場の確保など、一定規模の敷地が必要となります。今後、更新の検討を行う際には、この点にも留意しつつ、配置を検討します。

3 スポーツ施設の検討結果

2025年度までに取組を進める施設は、以下のとおりです。

【図表 91 更新対象施設】

対象施設	取組	内容
		更新の機会を捉えた対策（集約化や複合化、廃止など）も含めて検討することとし、対策の内容が明らかなきは、その内容を具体的に記載しています。
初雁公園野球場	更新の 検討	更新の機会を捉えた対策も含めて検討します。

【図表 92 改修対象施設】

対象施設	取組	内容
川越武道館	その他 改修	耐震補強工事にあわせ、内部改修工事を実施しています。
川越運動公園 (テニスコート管理棟)	20年目 改修	20年目改修の時期にあたり、工事履歴や点検結果等を踏まえ、必要な改修を行います。

C-3 観光関連施設

0 川越市公共施設等総合管理計画におけるマネジメント方針

- 産業観光館（小江戸蔵里）は、効率的で効果的な運営を行うことで、施設効用の向上を図ります。
また、計画的に維持・管理を行い、予防保全を図ります。
- 川越まつり会館は、民間活力を導入した運営方法を検討し、周辺の観光関連施設と連携し、施設効用の向上を図ります。
また、計画的に維持・管理を行い、予防保全を図ります。
- 鉄道など民間事業者のスペースに設置している川越駅及び本川越駅の観光案内所は、機能を維持します。なお、賃貸物件に設置しているため、個別施設計画は策定しません。
また、仲町観光案内所については、周辺の施設と連携するなど、施設効用の向上を図ります。

1 施設の概要など

(1) 施設概要（設置目的、利用状況、整備状況など）

(産業観光館（小江戸蔵里）)

産業観光館（小江戸蔵里）は、川越市産業観光館条例で位置付けられた施設です。市民の地域産業に関する理解を深めるとともに、市民と観光旅行者の交流を促進することにより地域の活性化を図ることを目的とし、地域の特産品の販売、地場野菜等を使用した創作料理の提供、県内産の日本酒の試飲等を行っています。

2018年度の利用者数は、407,549人で、2014年度以降40万人を超えて推移しています。

産業観光館（小江戸蔵里）は、明治時代以降に建築された酒蔵等を2010年度に改修した、国の登録有形文化財の建物を活用している施設です。2017年度には一部リニューアルを行い、内装、給排水設備、電気設備等を改修しています。

なお、当施設は、指定管理者である株式会社まちづくり川越が運営しています。

(川越まつり会館)

川越まつり会館は、川越まつり会館条例で位置付けられた施設です。市民の川越まつりに関する知識及び教養の向上を図るとともに、観光の振興

に寄与することを目的とし、川越まつりの山車や資料等の展示を行っています。

2018年度の入館者数は、97,565人で、17,414,240円の収入（観覧料）がありました。

川越まつり会館は、新耐震基準建築物です。

（観光案内所）

観光案内所は、観光事業の振興を図ることを目的に、観光情報発信の拠点として川越駅、本川越駅、仲町の3か所に設置している施設です。

2018年度の3か所の利用者数の合計は580,140人で、観光案内所の利用者数は増加傾向にあります。

川越駅観光案内所及び本川越駅観光案内所は、賃貸物件に設置しています。仲町観光案内所は、1892年度に建築された旧笠間家住宅を2010年度に観光案内所として改修しています。

（元町休憩所）

元町休憩所は、一番街周辺における滞在時間の延長、回遊性の向上を図るため、観光客等の食事や休憩に対応できる施設として川越まつり会館の隣接地に設置しています。

元町休憩所は、新耐震基準建築物です。

（2）対象施設

ここで対象とする施設は、以下のとおりです。

【図表 93 対象施設一覧（観光関連施設）】

No.	施設名	地区	建築年度	延床面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)	備考
1	産業観光館（小江戸蔵里）	本庁	不明 (2010)	1,251	3,064	
2	川越まつり会館	本庁	2002	1,836	2,819	
3	仲町観光案内所	本庁	1892 (2010)	145	268	
4	元町休憩所	本庁	2014	188	469	

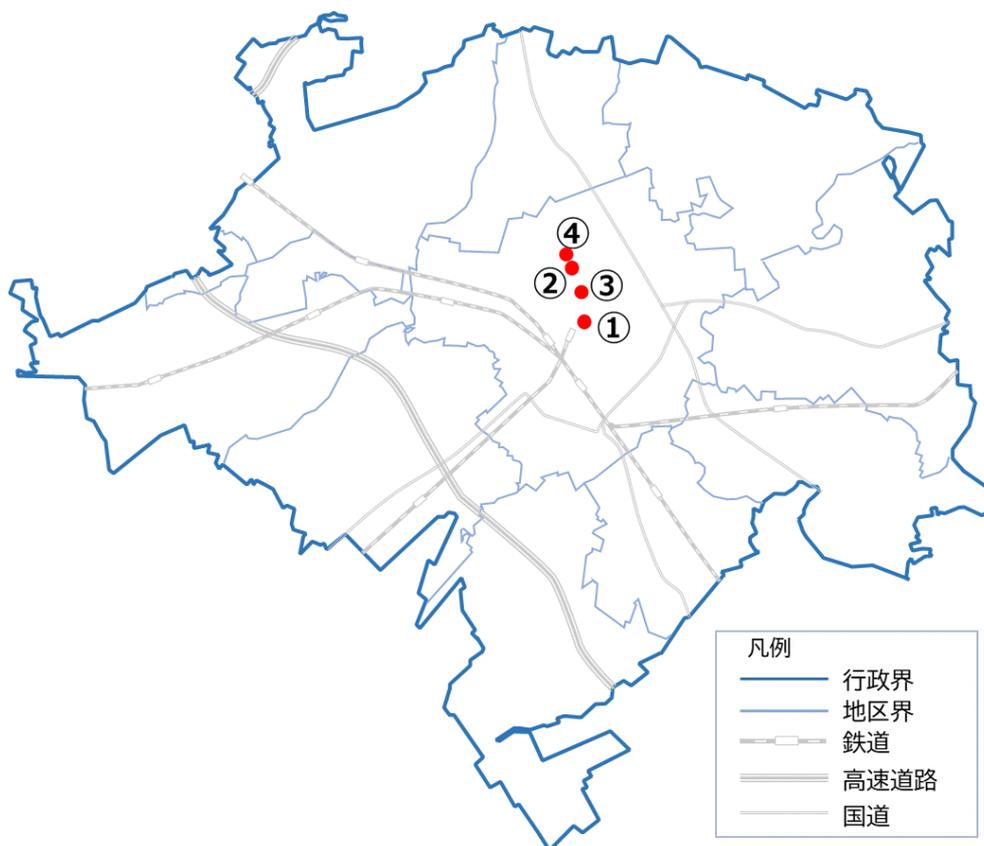
※産業観光館（小江戸蔵里）及び仲町観光案内所は、明治時代等に建築された建物を改修した施設であり、建築年度にある括弧の中は、改修年度を記載

【図表 94 その他施設一覧（観光関連施設）】

No.	施設名	地区	建築年度	延床面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)	備考
1	川越駅観光案内所	本庁	—	40	—	賃借
2	本川越駅観光案内所	本庁	—	33	—	賃借

※川越駅観光案内所及び本川越駅観光案内所は、賃借している建物に設置しているため、個別施設計画の対象外とする。

【図表 95 配置図（観光関連施設）】



(3) 観光関連施設の課題

(産業観光館（小江戸蔵里）)

① 効果的な施設の活用

産業観光館（小江戸蔵里）は、明治・大正・昭和時代に建築された酒蔵等を2010年度に改修した施設であり、現時点で施設に関する課題はありません。賑わいの創出により地域の活性化に資する施設として、より効果的に施設を活用していくため、施設の魅力を向上させ、利用者数の増加に向けた取組が必要です。

(川越まつり会館)

① 計画的な施設・設備の保全

川越まつり会館は建築後 17 年を経過し、空調等の設備に不具合が生じています。そのほか、山車展示のための湿度管理に係る設備等、特有の設備についても維持管理が必要です。

② 効率的で効果的な運営手法の検討

2017 年 3 月に策定された民間委託等推進計画において、指定管理者制度の導入について検討することとされており、民間活力を活用し、サービスの向上や効率的な運営手法の検討が必要です。

(仲町観光案内所、元町休憩所)

仲町観光案内所は 1892 年度建築の住宅を 2010 年度に改修した施設、元町休憩所は 2014 年度に建築した新しい施設であり、現時点で施設に関する課題はありません。

2 観光関連施設の整備更新の方針

(1) 今後の方向性

(共通)

産業観光館（小江戸蔵里）及び仲町観光案内所は、明治時代等の建物を改修している施設、川越まつり会館及び元町休憩所は、新耐震基準建築物であり、計画的に保全を行い、長寿命化を図ります。

(産業観光館（小江戸蔵里）)

地域産業の魅力の発信のために活用できる地域コンテンツや、多様化する観光客等のニーズに対応するための必要な機能を検討するとともに、引き続き民間活力を活用し、より魅力的な施設とすることにより、施設効用の向上を図ります。

(川越まつり会館)

空調等の設備のほか、展示に係る特有の設備もあわせて、計画的に保全を行います。

また、民間委託等推進計画に基づき、指定管理者制度の導入を検討し、効率的な施設運営を図ります。

(仲町観光案内所)

多様化する観光旅行者のニーズや、他の観光施設の機能を鑑み、観光案内所として必要な機能や施設の在り方について検討します。

(2) 規模・配置について

産業観光館（小江戸蔵里）は、市民の利用及び市民と観光旅行者の交流の促進のため、多くの観光旅行者が訪れる蔵造りの町並み周辺とその最寄りの鉄道駅周辺を結ぶ結節地域に設置されています。

その他の観光関連施設は、観光の振興に資する施設として、多くの観光旅行者が訪れる蔵造りの町並み周辺に設置されています。

3 観光関連施設の検討結果

2025年度までに取組を進める施設は、以下のとおりです。

【図表 96 改修対象施設】

対象施設	取組	内容
川越まつり会館	20年目改修	20年目改修の時期にあたり、工事履歴や点検結果等を踏まえ、必要な改修を行います。

余白ページ

C-4 集会施設

0 川越市公共施設等総合管理計画におけるマネジメント方針

- 中高年齢労働者福祉センター（サンライフ川越）は、稼働実態を精査のうえ、総量を適切な規模とするとともに、周辺の公共施設との共用化や複合化を進めます。
- 農業ふれあいセンターは、必要な機能や稼働実態を精査のうえ、総量を適正な規模にします。
また、周辺の公共施設との共用化や複合化を進めるとともに、地域と連携し、施設効用の向上を図ります。

1 施設の概要など

(1) 施設概要（設置目的、利用状況、整備状況など）

（中高年齢労働者福祉センター（サンライフ川越））

中高年齢労働者福祉センター（サンライフ川越）は、川越市中高年齢労働者福祉センター条例で位置付けられた施設です。中高年齢労働者の福祉の増進を図ることを目的とし、トレーニング室や会議室等の貸し出しのほか、エアロビクスなどのスポーツ教室や着付けなどの文化教室、集団健康診断などを実施しています。また、隣接する芳野台体育館とは渡り廊下でつながり、スポーツ教室で使用するなど、開設当初から一体的に管理されています。

2018年度の利用者数は26,604人で、近年は増加傾向にあります。トレーニング室の利用者が7,720人と最も多く、他の会議室や和室の平均使用率は23.7%となっています。

中高年齢労働者福祉センター（サンライフ川越）は、新耐震基準建築物です。1998年度に屋上防水、外壁等の改修を、2004年度から2007年度にかけて空調設備の改修を行っています。

なお、当施設は、指定管理者である公益財団法人川越市勤労者福祉サービスセンターが運営しています。

（農業ふれあいセンター）

農業ふれあいセンターは、川越市農業ふれあいセンター条例で位置付けられた施設です。市民が農業体験を通じ農業に対する理解を深めるとともに、農業関係者に研修の場を提供することによりその資質の向上を図ることを目的とし、多目的ホール等の貸し出しのほか、田植えなどの農業体験

事業や農業者を対象とした講演会などを実施しています。敷地内の伊佐沼農産物直売所及び伊佐沼庵では、地場産農産物や加工品の販売が行われています。

2018年度の利用者数は49,450人で、近年は概ね横ばいで推移しています。会議室等は農業者団体による会議など、多目的ホールは卓球などのスポーツで多く利用され、貸室の平均使用率は48.1%となっています。

農業ふれあいセンターは、新耐震基準建築物で、2015年度と2017年度に一部空調設備の更新を行っています。伊佐沼庵及び伊佐沼農産物直売所は、展示用家屋（旧戸田家住宅）であった古民家と農業用倉庫を2005年に改修し、食堂及び農産物直売所として整備した施設で、行政財産の使用を許可し農業者団体である有限会社あぐり小江戸が管理運営を行っています。

また、「川越市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の「蔵inガルテン川越」事業において、グリーンツーリズムの拠点施設としての整備を進めています。

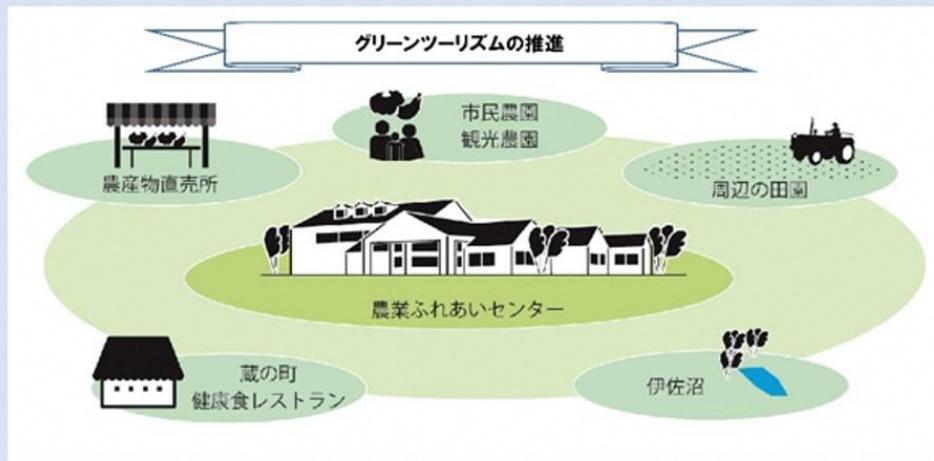
（参考）「蔵inガルテン川越」について

「蔵inガルテン川越」は、農業ふれあいセンターを中心としたグリーンツーリズム拠点の整備により、「農のあるまち川越」の体験を通じて、市民の市に対する愛着の高まり、交流人口の増加による地域経済の活性化を目指すものです。

農業ふれあいセンターの設置目的として「市民が農のある生活を楽しむ」、「農業関係者の研修の場」、「グリーンツーリズムの拠点」の3つを位置付けることとしています。

当事業により2021年度に農業ふれあいセンターの改修が予定されています。グリーンツーリズムの拠点施設として必要な機能を付すための改修に合わせ、屋根の雨漏りなど、喫緊な対応が必要な改修を行うほか、施設の長寿命化を視野に必要な改修を実施することとしています。

■プロジェクト概要図（「川越市まち・ひと・しごと創生総合戦略」より）



(2) 対象施設

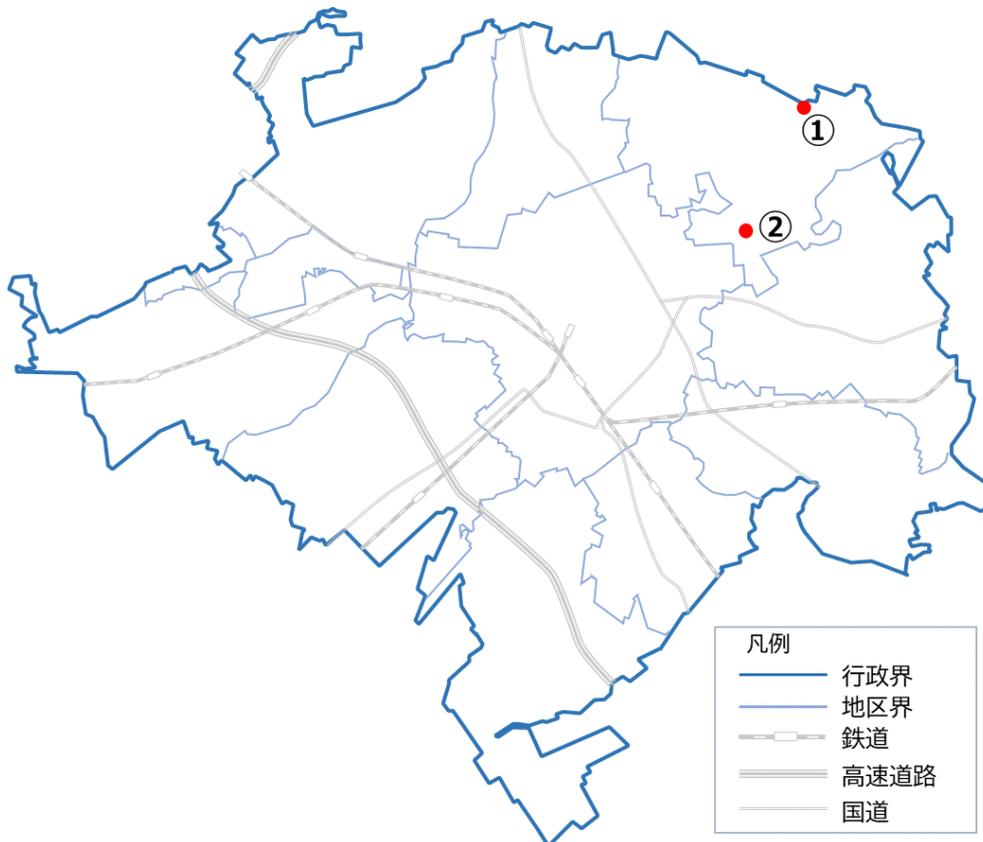
ここで対象とする施設は、以下のとおりです。

【図表 97 対象施設一覧（集会施設）】

No.	施設名	地区	建築年度	延床面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)	備考
1	中高年齢労働者福祉センター (サンライフ川越)	芳野	1985	1,350	2,608	内 552 ㎡借地
2	農業ふれあいセンター	芳野			20,122	内 1,908 ㎡借地
2a	農業ふれあいセンター		1989	1,938		
2b	伊佐沼庵		不明 (1992)	147		
2c	伊佐沼農産物直売所		1989	290		

※伊佐沼庵は、江戸時代に建築された建物を改修した施設であり、建築年度にある括弧の中は改修年度を記載

【図表 98 配置図（集会施設）】



(3) 集会施設の課題

① 計画的な施設・設備の保全

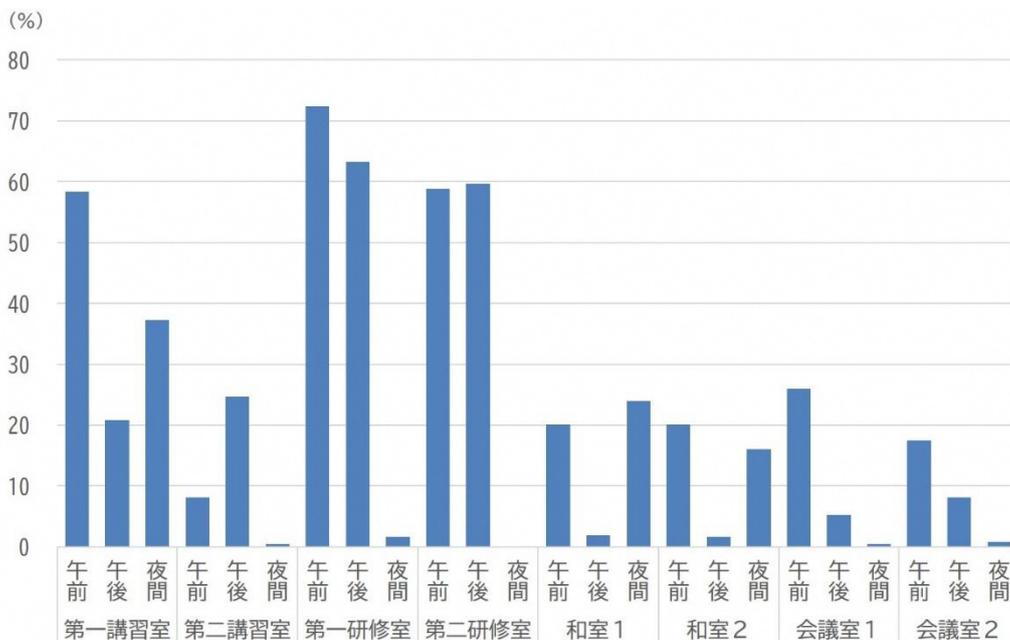
中高年齢労働者福祉センター（サンライフ川越）は建築後34年、農業ふれあいセンターは建築後30年を経過しており、施設や設備の老朽化が進んでいます。外壁や受水槽、変電設備などの計画的な保全が必要です。

② 施設効用の向上

中高年齢労働者福祉センター（サンライフ川越）は、トレーニング室の利用が多く、研修室を活用したスポーツ教室等が実施されている一方、使用率の低い部屋や時間帯が見られます（図表99）。

施設の利用状況やニーズを検証し、施設の在り方を含め施設効用の向上のための検討が必要です。

【図表 99 中高年齢労働者福祉センターの部屋ごとの使用率（2018年度）】



③ 効率的な運営手法の検討

農業ふれあいセンターは、2017年3月に策定された民間委託等推進計画において、指定管理者制度の導入について検討することとされており、民間活力を活用し、サービスの向上や効率的な運営手法の検討が必要です。

2 集会施設の整備更新の方針

(1) 今後の方向性

(中高年齢労働者福祉センター（サンライフ川越））

中高年齢労働者福祉センター（サンライフ川越）は、今後40年目改修が必要となりますが、その前提として、施設の在り方の検討を行います。

検討にあたっては、施設の利用状況やニーズの検証により、サービス内容や運営方法などの必要な見直しを行うとともに、開設当初より一体的に管理されている芳野台体育館の在り方もあわせて検討することとします。

また、他の公共施設においても、類似した部屋があることから、今後の大規模な改修や更新を検討する際や、類似する機能を持つ他の公共施設の更新の際には、複合化や共用化なども見据えた検討を行います。

(農業ふれあいセンター)

農業ふれあいセンターは、「蔵 in ガルテン川越」事業において改修を行います。事業による改修後も、施設を長期にわたって使用するためには、計画的な保全が必要です。

また、民間委託等推進計画に基づき、指定管理者制度の導入を検討し、効率的な施設運営を図ります。

(2) 規模・配置について

(農業ふれあいセンター)

農業ふれあいセンターは、「蔵 in ガルテン川越グリーンツーリズム拠点整備計画」において施設の在り方や規模の検討がされています。

3 集会施設の検討結果

2025年度までに取組を進める施設は、以下のとおりです。

【図表 100 改修対象施設】

対象施設	取組	内容
中高年齢労働者福祉センター （サンライフ川越）	40年目 改修	芳野台体育館と共に施設の在り方を検討した上で、40年目改修の必要性を検討します。
農業ふれあいセンター	その他 改修	「蔵 in ガルテン川越」事業に伴う改修を行います。

余白ページ